



10月号
平成30年10月25日

桜花爛漫

郷土を舞台に 夢に向かい ともに歩む学校

心豊かで
たくましい荘川っ子
・考える子
・思いやりのある子
・元気な子

後期6か月の挑戦!

校長 水口 悟

曇時施す(しぐれ ときどき ほどこす)

時雨が降るようになるころ。古の都人が歌に詠んだ、さあつと降っては晴れる、通り雨の小気味よさ。(新暦では、およそ十月二十八日～十一月一日ごろ 日本の七十二候を楽しむより)

◇ ひとり歩きのできる子は、節目を大切にする子

4つのつなぐ	4・5・6月	7・8・9月
○ 心をつなぐ	70%	87%
○ めあてをつなぐ	89%	83%
○ 考えをつなぐ	68%	70%
○ ふるさをつなぐ	92%	96%



左の表は、前期の4つのつなぐの評価です。先生たちが、みなさんの姿を3ヶ月毎に見届けたものです。10月9日の後期始業式にて、表を見せながら「どうですか?」「何が足りないのだろう?」と全校のみんなに質問をしました。じっと、数字をみながら考えている顔、顔、顔……。しっかりと自分を見つめる顔の中に、ポツポツと手が挙がります。数字を伸ばすために、どうしたら良い

のかを考えられるところが、荘川小学校児童のすばらしいところです。時間がなかったので、数名しか発言してもらえませんでした。すばらしい考えを聞かせてもらい、とても嬉しかった。「何が足りないのか!?!」……それは、裏を返せば先生たち自身の「どうしたら、一人一人の子どもたちをもっと伸ばせるのか」という自問です。その日に、校長室の掲示板に立ち止まり、「どうしたら、ふるさをつなぐが100%になるのかなあ」とつぶやいている児童がいました。前期と後期の大きな節目にあたり、今の自分と向き合い自分自身と対話し、後期の自分の歩み方を考えることが、さらに主体的で貪欲につながる力を鍛えることとなります。

◇ ひとり歩きのできる子は、自分と対話できる子

5年生を中心とする見事な「高山市小学校陸上記録会」に向けての壮行会。13名一人一人の名前を呼び上げ、全校児童が上体を反らしながら大声で激励します。その激励に対し、6年生一人一人が自分のめあてを堂々と述べていきます。こんなすばらしい壮行会ができるならば、6年生は何があっても自分に負けないで、自己新記録を打ち立ててくれると感じました。合同運動会のときと同じく、ピンチをチャンスに変える精神です。

当日は、大変すばらしい天候となりました。6年生は、全校児童に見送られ中山公園グラウンドに向かいました。自家用車を飛ばして、競技場に着くと丁度、第一種目の200m女子～100m女子とプログラムが進んでいました。市内約800名の6年生との競技。一週800Mの美しいトラック。大勢の観客。いつもとは違う環境。100m女子予選。自分の番が回ってきます。「緊張感の中で自分とのやりとりをしているだろうか」「顔をくしゃくしゃにして応援してくれた下級生たちの顔を思い浮かべているだろうか」順番が回ってくれば、慌てないでスターティングブロックを合わせ、一度スタートを試し、ブロックの前に立って呼吸を整えています。「これなら大丈夫!」秋晴れの気持ちよい空気の中、ピストルの合図と同時にゴールに向かって駆け抜けて行きました。

◇ ひとり歩きのできる子の、教育環境

今月は、珠洲市と京都市の小中一貫教育校の視察研修に行かせて頂きました。共通して感じたことは、①学校を無くさないという思い②学校・保護者・地域の方々・行政との協働の精神③強みを活かした学校やまちづくりへの挑戦です。学校経営については、まだまだ一貫教育に向けて整理することはあります。しかし、荘川の一貫教育に向けた実践は、その特色を活かしたすてきな実践であることは間違い無いと感じて来ました。